

有明工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	近代化建築史論	
科目基礎情報							
科目番号		AC045		科目区分		専門 / 選択	
授業形態		授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2	
開設学科		建築学専攻		対象学年		専2	
開設期		前期		週時間数		前期:1	
教科書/教材		配付プリント					
担当教員		松岡 高弘					
到達目標							
1. 近代化遺産の意味を説明できる。 2. 近代化遺産の特徴を説明できる。 3. 近代化遺産を活用していくことの意義を説明できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		近代化遺産の重要性を理解し、近代化遺産の意味を説明できる。		近代化遺産の意味を説明できる。		近代化遺産の意味を説明できない。	
評価項目2		各分野における近代化の意味を理解し、近代化遺産の特徴を説明できる。		近代化遺産の特徴を説明できる。		近代化遺産の特徴を説明できない。	
評価項目3		近代化遺産の活用を通して、その遺産の特徴を理解し、それを活用していくことの意義を説明できる。		近代化遺産を活用していくことの意義を説明できる。		近代化遺産を活用していくことの意義を説明できない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 B-2							
教育方法等							
概要		近代化遺産とは、近代化を担った各種の建造物や工作物を意味し、産業・交通・土木遺産の3種類がある。産業遺産には鉱業・製鉄等、交通遺産には駅舎・鉄橋・道路橋等、土木遺産には港湾施設・発電所・上下水道施設等が含まれる。本科目では近代化遺産の範囲を広げて、近代化に伴い必要とされた新しい機能を有する建築を対象とする。本科目では、近代化を担った以上の諸施設を通じて近代化の意味を理解し、近代化遺産の特徴を説明できることを目標とする。近代化遺産は近代化という要求に基づいて設けられたものであるため、新たな機能に対応できなければ壊されていく。しかし、地域の文化にとっては必要不可欠なものであるため、まちづくりの中での活用方法について考えることができることも目標とする。本科目は、企業において重要文化財等の歴史的建造物の保存修理工事を担当した教員が、その経験から得られた知見を活かしつつ、日本の近代化に貢献した歴史的建造物に関する特徴等について講義形式で授業を行うものである。					
授業の進め方・方法		配付プリントを用いて講義を行う。定期試験70%、2つのレポート30%で成績を評価する。この科目は学修単位のため、事前・事後学習としてレポートを実施する。					
注意点		本科5年次の近代建築史で習得した内容は基礎的知識の一つである。必ず、予習をして授業に臨むこと。2つのレポートは、近代化遺産の実測調査のレポートおよび近代化遺産をまちづくりに活用している事例のレポートである。実測調査では、調査した近代化遺産の特徴を理解し、事例調査では、文献等で事例の特色を理解し、図面や写真等を用いて解りやすくまとめているか、を評価する。					
授業計画							
前期	1stQ	週	授業内容			週ごとの到達目標	
		1週	近代化遺産（1）			様々な分野における近代化の内容を理解し、近代化遺産の意義を説明できる。	
		2週	近代化遺産（2）			近代化遺産に係る文化財行政の在り方を説明できる。	
		3週	三井三池炭鉱（1）			三池炭鉱の沿革を理解し、現存する生産施設の特徴を説明できる。	
		4週	三井三池炭鉱（2）			港俱樂部等の建築の特徴を説明できる。	
		5週	炭鉱関連施設（1）			事務所建築の特徴を説明できる。	
		6週	炭鉱関連施設（2）			炭鉱住宅の特徴を説明できる。	
		7週	炭鉱関連施設（3）			炭鉱経営者の住宅の特徴を説明できる。	
	2ndQ	8週	八幡製鉄所			八幡製鉄所に関連する近代化遺産の特徴を説明できる。	
		9週	学校建築			明治期の学校建築の特徴を説明できる。	
		10週	交通関連遺産（1）			鉄道の駅舎の建築の特徴を説明できる。	
		11週	交通関連遺産（2）			鉄骨や鉄筋コンクリートの道路橋の特徴を説明できる。	
		12週	銀行・郵便局			銀行・郵便局の建築の特徴を説明できる。	
		13週	近代化遺産の保存活用（1）			近代化遺産をまちづくりの中で保存活用している事例から近代化遺産の意義を説明できる。	
		14週	近代化遺産の保存活用（2）			近代化遺産をまちづくりの中で保存活用している事例から近代化遺産の意義を説明できる。	
		15週	期末試験				
		16週	テスト返却と解説				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
専門的能力	分野別の専門工学	建築系分野	計画・歴史	日本および海外における近現代の建築様式の特徴について説明できる。		5	前9,前10,前12,前13,前14
評価割合							
		試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他
							合計

総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	0	30	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0